

研 究 分 野	増養殖技術	部名	ほたて貝部
研 究 課 題 名	海面養殖業高度化事業		
予 算 区 分	国補 (県 1/2)		
試験研究実施年度・研究期間	H. 16 ~ H. 19		
担 当	吉田 達		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課		

〈目的〉

養殖中のホタテガイや資材に付着生物が付着することにより、ホタテガイの成長が阻害されるほか、分散や出荷時には作業効率が著しく低下する恐れがあることから、付着生物の生態等を調査・研究し、効率的な付着防止方法を開発するものである。なお、調査対象は、春先にパールネットへ大量に付着するため、近年、漁業者から要望が高いユーレイボヤとした。

〈試験研究方法〉

1. ユーレイボヤ浮遊幼生調査

陸奥湾西湾の蓬田村・青森市久栗坂、陸奥湾東湾の野辺地町・むつ市川内で、平成17年10月上旬～12月上旬にかけて、各地点4～5回、北原式定量ネット（口径25cm、目合XX13）を鉛直曳きして、ユーレイボヤ浮遊幼生を採取し、万能投影器を用いて個体数と全長を測定した。

2. ユーレイボヤ付着量調査

平成17年10月上旬～下旬に、陸奥湾西湾の蓬田村・青森市久栗坂・平内町浦田、陸奥湾東湾の平内町東田沢・野辺地町・むつ市川内で、パールネットに付着しているユーレイボヤを採取して重量を測定した。

〈結果の概要・要約〉

1. ユーレイボヤ浮遊幼生調査

蓬田地区は0.3～8.4個／トン、久栗坂地区は0.9～7.8個／トン、川内地区は0.0～2.1個／トンの範囲で浮遊幼生が出現したが、野辺地地区では全く浮遊幼生が見られなかった。浮遊幼生の出現数は、西湾で多く、東湾で少ない傾向を示したほか、西湾では昨年に比べて浮遊幼生の出現数が多かった。また、浮遊幼生の出現ピークは、蓬田地区では10月上～中旬、久栗坂地区では11月下旬、川内地区では11月中旬とそれぞれ異なっていた。

2. ユーレイボヤ付着量調査

1段当り付着量は、蓬田地区で12.3個体/段、久栗坂地区で3.5個体/段、浦田地区で10.0個体/段、東田沢地区で4.9個体/段、野辺地地区で0.2個体/段、川内地区で5.0個体/段であった。西湾で多く、東湾で少ない傾向を示した。同時期の浮遊幼生出現数との関係を見ると、パールネットへの付着量が多い地区で浮遊幼生の出現数が多い傾向を示した。

〈主要成果の具体的なデータ〉

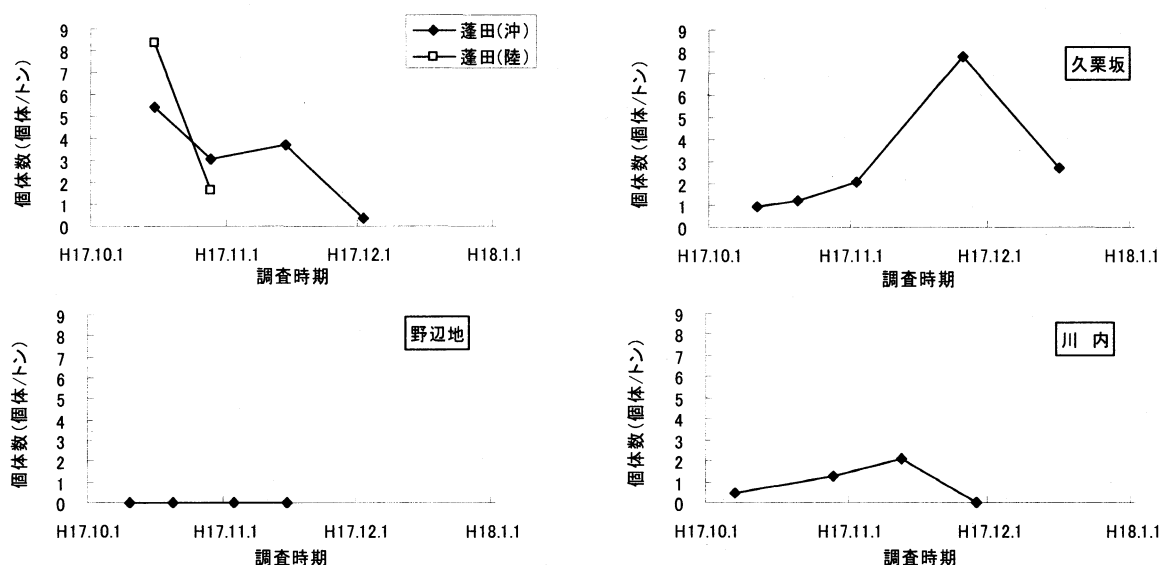


図1 平成17年度ユーレイボヤ浮遊幼生調査結果

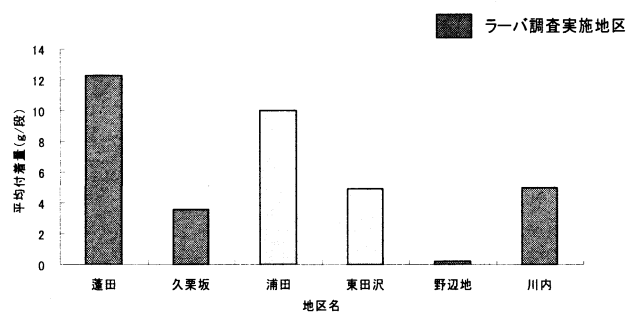


図2 パールネットのユーレイボヤ付着量(地区別)

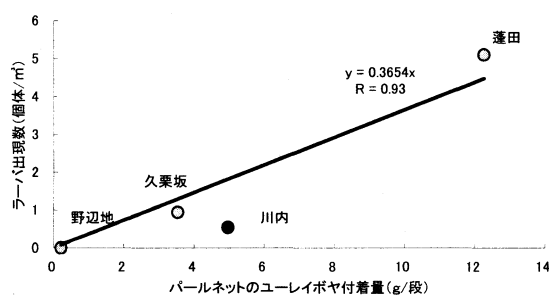


図3 パールネットのユーレイボヤ付着量と浮遊幼生出現数の関係

〈今後の問題点〉

付着量・浮遊幼生出現数は年によって大きく異なると考えられることから、継続してデータを取る必要がある。また、水深別のユーレイボヤ付着量を把握する必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

付着量・浮遊幼生調査を継続して実施するとともに、実証試験により付着防止対策の検討を行う。

〈結果の発表・活用状況等〉

海面養殖高度化事業全体協議会及び地域座談会にて、試験結果の報告を行った。